

Thu. Jul 5, 2018

第7会場

男女共同参画セッション

男女共同参画セッション（I-DJK）

男女共同参画～病院・大学・学会のとりくみ

座長:岩本 眞理（済生会横浜市東部病院こどもセンター 総合小児科）

座長:松井 彦郎（東京大学医学部附属病院 小児集中治療室PICU）

10:00 AM - 11:00 AM 第7会場 (414+415)

[I-DJK-01] 男女共同参画－日本小児科学会の取り組み－

○宮本 朋幸（横須賀市立うわまち病院小児医療センター）

[I-DJK-02] 女性医師の活躍を支援する富山大学の試み

○市田 路子（富山大学医学部 小児科学教室）

[I-DJK-03] “202030”をめざして－日本循環器学会の取り組み－

○瀧原 圭子（大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター）

男女共同参画セッション

男女共同参画セッション（I-DJK）

男女共同参画～病院・大学・学会のとりくみ

座長:岩本 眞理（済生会横浜市東部病院こどもセンター 総合小児科）

座長:松井 彦郎（東京大学医学部附属病院 小児集中治療室PICU）

Thu. Jul 5, 2018 10:00 AM - 11:00 AM 第7会場 (414+415)

[I-DJK-01] 男女共同参画－日本小児科学会の取り組み－

○宮本 朋幸（横須賀市立うわまち病院小児医療センター）

[I-DJK-02] 女性医師の活躍を支援する富山大学の試み

○市田 路子（富山大学医学部 小児科学教室）

[I-DJK-03] “202030”をめざして－日本循環器学会の取り組み－

○瀧原 圭子（大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター）

(Thu. Jul 5, 2018 10:00 AM - 11:00 AM 第7会場)

[I-DJK-01] 男女共同参画－日本小児科学会の取り組み－

○宮本 朋幸（横須賀市立うわまち病院小児医療センター）

Keywords: 男女共同参画, 日本小児科学会, 働き方改革

日本小児科学会では、2002年に「小児科女性医師の働く環境改善委員会」が設立され、早くから男女共同参画への動きがみられた。さらに2006年には「小児科医のQOLを改善するためのプロジェクトチーム」が発足し、現在政府でも議論されている「働き方改革」を先取りした形で様々な活動が行われてきた。それにより、子育て女性医師の当直・オンコールの免除、時短勤務などの様々な施策が、同時に行われた小児医療の集約化の動きと共に浸透し始めた。しかし、24時間365日継続することが必要とされる医療の世界では、そのような施策だけでは問題が解決しないということが徐々に明らかになってきた。そこで2014年、その委員会は男女共同参画推進委員会と名称が変更され、「真の男女共同参画とは？」を命題に活動が始まった。いわゆる育児者のみに焦点を絞るのではなく、様々な環境にある医師が「医師の公共性」を認識し臨床に従事し、研究も行い、平等にチャンスが与えられ男女共に指導的地位や管理職を目指せることのできる施策作りを目標としたのである。2018年4月の日本小児科学会学術集会で、当委員会の企画である「小児科医に明日はあるか？」というシンポジウムが行われ、①各大学医局人事担当者への男女共同参画に対するアンケート②地域小児科センターに勤務する若手小児科医の動向③シフト勤務への取り組み④育児女性医師への配慮の問題⑤女性医師同士自ら作成した勤務体制のルールが提示され、男女共にいかなるライフイベントに対しても医師としてキャリアアップがはかることができる方法について話し合いが行われた。本講演では、日本小児科学会の男女共同参画への取り組みの変遷と、今後の目標について述べる。

(Thu. Jul 5, 2018 10:00 AM - 11:00 AM 第7会場)

[I-DJK-02] 女性医師の活躍を支援する富山大学の試み

○市田 路子（富山大学医学部 小児科学教室）

Keywords: 院内保育, 病児保育, ロールモデル

若い世代の女性医師がそのキャリアを磨く時期は、同時に子どもを産み育てる大切な時期でもある。この2つの大事な仕事をかけ持っている女性医師のため、院内保育や病児保育などの環境整備を始めとし、子育てとキャリアアップの両立を支援していくことは重要な課題である。富山大学では、2007年に、文科省「周産期医療整備事業」の助成を受け、総合的周産期医療人育成プログラムを展開し、その一環として、女性医師の役割を重視し、女性医師支援を進めた。2007年には、院内保育を開設し、続いて2009年には女性医師支援室の設置とともに、当大学の特徴である休日および夜間のベビーシッタープーリングシステムを開始し、時間外の勤務にも対応できる体制を構築した。さらに2010年には、病児・病後児保育室を開設し、女性医師が安心して働き続ける環境を整えた。一方、各診療科では、病棟勤務をチーム制あるいは複数主治医制とし、夜間・休日を完全当直体制とし、勤務体制を整えた。これらの職場環境整備後、出産後の女性医師の離職を食い止め、職場復帰率はほぼ100%となり、人手不足で危機的状況であった富山県内の周産期医療体制を改善することができた。富山県内の新生児専任医の半数以上は女性医師で、小児科の中でも肉体的、精神的にハードである新生児医療においても、環境が整えば子育て中の女性医師も貢献できることが実証された。また、若い女性医師たちが中心となり、産休育休に関する独自のルールを作り、少し年上のロールモデルに従って順調に復帰し、キャリアアップを目指している。女性医師が働き続けることは、男性医師の日直などを軽減し男女ともに労働環境を改善し、医療安全にも繋がる。また、勤務医の偏在化により、慢性的な医師不足に陥っている地方では、女性医師の勤務推進が重要な解決策につながる可能性がある。

(Thu. Jul 5, 2018 10:00 AM - 11:00 AM 第7会場)

[I-DJK-03] “202030”をめざして -日本循環器学会の取り組み-

○瀧原 圭子 (大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター)

Keywords: 男女共同参画, ダイバーシティ, キャリア支援

内閣府より女性の管理職への登用推進についての文書が2014年に提出され、「指導的地位に占める女性の割合を2020年までに少なくとも30%程度」とする目標の達成に向けて、様々な分野で取り組みを推進することが奨励されています。日本循環器学会では女性循環器医をとりまく勤務環境を改善し、子育てしながら仕事を継続しキャリア形成できる勤務体制を確立するため、2010年に男女共同参画委員会が設立されました。勤務環境は地域により問題点が異なるため、9つの支部を代表する委員から委員会を構成し、地域の問題解決を優先するとともに、さまざまなアクションプランを実施してきました。2012年には会員数に応じた女性評議員、2013年からは年次学術集会において会員数に応じた女性座長の登用、2014年には「勤務環境改善のための提言」をリリースするとともに、年次学術集会及び各地方会において委員会主催のセミナーを毎年開催してきました。一方、キャリア支援として女性研究者奨励賞や国際学会での女性発表者へのトラベルアワードも設置し、昨年には女性会員のネットワークを強化するために、女性循環器医コンソーシアム（JCS-JJC）を設立しました。さらには、意思決定機関への平等な参加が奨励されていることより、2016年度からはすべての委員会において女性委員の参画を、また各学術賞選考委員会においても女性委員を1名以上指名することになりました。以上のように、仕事の継続支援とキャリア支援を2本柱としてさまざまな施策に取り組んできましたが、まだまだ指導的立場・意思決定機関への女性医師の参画は不十分であり、意識改革を含めた男性医師への働きかけや制度の確立が望まれています。